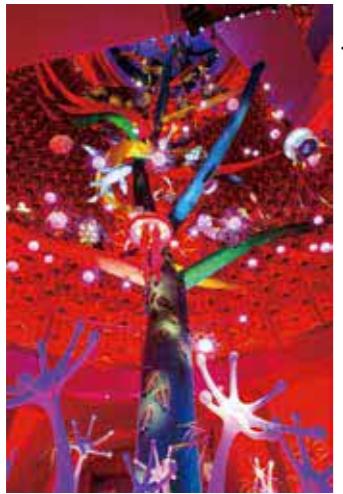


- 2016年～2018年 耐震改修工事と内部展示の修理・整備
- 2018年 内部の一般公開を開始



写真提供：大阪府



写真提供：大阪府

「生命の樹」

内部展示でひときわ目を引く巨大で幻想的な「生命の樹」。生命の進化の過程を表現した樹の幹や枝には、アーベーなどの原生生物やクロマニヨン人など、183体の模型が取り付けられています。再生可能なものはできる限り修復し、なかには大阪万博当時の面影を残そうと修復せずにそのまま展示されているものも。

ぜひ体験してみてください。

「地底の太陽」

大阪万博開催当時、太陽の塔を含むテーマ館の地下展示には第4の顔「地底の太陽」がありました。大阪万博閉幕後に行方不明となり、今でも見つかりませんが、内部展示で復元されたものを見ることができます。

- 2020年 登録有形文化財(建造物)に登録
- 2025年 重要文化財(建造物)に指定

information

所在地 吹田市千里万博記念公園
TEL 0570・01・1970
料金 大人720円、小中学生310円
※別途自然文化園・日本庭園共通入園料(大人260円、小中学生80円)が必要
太陽の塔入館と自然文化園・日本庭園共通入園料のセットチケットや、予約方法など詳しくは太陽の塔オフィシャルサイトへ。
開館時間：午前10時～午後5時。
最終受け付けは午後4時30分
※太陽の塔への入館は、オフィシャルサイトより前日までの事前予約制。
先着順。予約に空きがあれば、当日券を太陽の塔内部の受付カウンターで販売
休館日 水曜日・年末年始(万博記念公園に準ずる)
※10月～11月、4月1日～5月2日は無休



太陽の塔
オフィシャル
サイト

太陽の塔の評価

太陽の塔は、「国宝及び重要文化財(建造物)指定基準」のうち、2つのことが評価され重要文化財に指定されました。

Point1 技術的に優秀なもの

岡本太郎氏のデザインを忠実に具現化するため、学者・設計者・技術者が集結。当時の最先端技術を投入し、巨大で特異な形を実現しました。

設計には複雑な曲面を図面化するために先進的な数学的解析の手法が用いられ、建設工事には独自仕様の鋼管や、吹き付けコンクリートが使用されました。特に高い精度が求められた、大屋根と近接する腕の先や高所での作業には、熟練の職人が携わりました。

Point2 歴史的価値の高いもの

高度経済成長期の日本を象徴する大阪万博の記念碑であり、レガシーとしても貴重なものです。

圧倒的な存在感の太陽の塔は、これからも人々の心に深く印象付けられる存在となることでしょう。

「太陽の塔」が国の重要文化財に！

万博記念公園のランドマークである太陽の塔が、今年の8月27日に重要文化財(建造物)に指定されました。長年多くの人に親しまれている太陽の塔の、これまでの軌跡をたどってみましょう。
問広報課(TEL 6384・1276 FAX 6384・7887)か文化財保護課(岸部北4 TEL 6338・5500 FAX 6338・9886)



太陽の塔とは

1970年に吹田市千里丘陵で開催された日本万国博覧会(大阪万博)の、テーマ館の一部として建てられた太陽の塔。高さは約70mで、デザインを手がけたのは芸術家の岡本太郎氏。

3つの顔

頂部は未来を象徴する「黄金の顔」、正面は現在を象徴する「太陽の顔」、背面は過去を象徴する「黒い太陽」を表しています。



軌跡

- 1969年 建設工事に着手
- 1970年 3月 大阪万博 開幕
- 1970年 9月 大阪万博 閉幕
- 1975年 永久保存が決定
- 1992年～1993年 「黄金の顔」など外観の修理工事



写真提供：大阪府

太陽の塔は会場の中心であるシンボルゾーンに、お祭り広場の大屋根を貫いてそびえ立っていました。大阪万博の中心的施設としての役割を担い、多くの人が訪れ、にぎわう場になりました。